

Living the Lotus

4
2021

VOL. 187

Buddhism in Everyday Life

開祖随感

「^{いるい}異類」との出会い

職場で気心の知れた仲間と手慣れた仕事を続けているほうが、居心地いごちがよくて、能率も上がるように思えます。しかし、そこには落とし穴があるのです。

唐の南泉なんせん禅師に「すべからく異類中に行くべし」という言葉があります。異類とは経典にさまざまな形で登場する人間以外の存在です。私たちは、いつも同類の中にばかりいると自分の癖や好き嫌い、愛憎にとらわれて、かたよった見方から離れられないのですね。それをた矯め直すには、勇気をもって未知の世界へ、新しい出会いを求めていくことが大切だという意味にもとれましょう。

慣れは甘えを生み、自分の癖をむきだしにしてしまいがちです。それが自分の成長を妨げ、小さく固まらせてしまうのです。自分の内に眠る可能性を開花させるには、新しい出会いが必要です。学校の新学期や会社の新年度は、その出会いのときです。「異類」との出会いは、緊張を強いられ、ときには苦しみを伴うこともあります。しかし、新しい出会いには必ず新しい幸せが待っているのです。そう信じきっていると、幸せのほうからこっちへ近づいてきてくれるのです。

(『開祖随感』10, P. 44-45)

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus
2021年4月号 (Vol.187)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1

普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international

@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川恵一

編集チーム: 長田健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



会長法話

いまをともに生きる

立正佼成会会長 庭野日鏡

実践によって仏になる

まもなく、^{しゃくそん}釈尊がお生まれになった四月八日の降誕会を迎えます。仏伝によれば、釈尊は誕生してすぐに「^{てんじょうてんげゆいがどくそん}天上天下唯我独尊」と宣言されたといわれます。これは、^{ただ}釈尊を讃える伝説の一つとされますが、私は仏教の本質をこれ以上ない表現で示したものと受けとめています。

この「^{たんじょうげ}誕生偈」を、ある方は「われこそは、この世にたぐいなきものである」と表現しています。釈尊だけでなく、人はだれもが生まれた瞬間から、それぞれ他と比べようのない^{どうと}尊い存在だということです。そして、その自らの命の尊さを自覚して生きることを教えるのが仏教ですから、「誕生偈」はそうした仏教の核心を釈尊降誕の物語にことよせて伝えているといえるのです。

また、仏教は「人が人を救う教え」ですが、その点から見ても「誕生偈」の意義には味わい深いものがあります。

人間釈尊が真理を悟り、その教えをもとに私たちが救われて、救われた人がまた身近で苦しむ人を救う——釈尊時代からつづく、人が人を救い・救われるという仏教の歴史に照らしても、人間のすばらしさを思わずにられません。

ただ、一つ大切なことは、釈尊が「生まれによって聖者となるのではない。行為によって聖者なのである」といわれるように、人間の尊さは日ごろの行ないによって磨きだされるということです。^{どうげん ぜんじ}道元禅師は「^{しゅうしやういっとう}修証一等」という言葉で、悟るための手段が修行ではなくて、^{しやうじん}精進するその姿が悟りの証だといっています。つまり、仏

の教えを暮らしに生かす日々の精進は私たちが仏であることの証で、その実践によって慈悲の心を深めていくのが仏道なのです。

春風となって

法華経の「薬王菩薩本事品」は、仏の教えを身をもって実践することの大切さと、その姿が多くの人に「阿耨多羅三藐三菩提の心」を発さしめることを示しています。平たくいえば、「まず人さま」と損得勘定を超えてわが身を使い、心と言葉を尽くして人を思いやる時、その実践は自分の幸せや喜びとともに、みんなの救いにつながる光明になるということです。

これをより具体的に、「仏道修行は人びとに奉仕すること」と明言する人もいます。シャーンティデーヴァというインド僧は、慈悲の心を行動で示すことが精進であり、仏教にほかならないといいます。そのことについて中村元先生は、「宗教の教えを知っているというだけでは、なんの意味もない。われわれの身体をもってする行為のどこかに具現されなければなりません」と簡潔に述べています。

教えを知っていることに意味がないわけではありませんが、困っている人にとっては、具体的に手を差し伸べてくれる行為は何よりの救いになるはずです。

さらに、そのあたたかな思いやりを受けた喜びが、自他の命の尊さに目ざめる契機になる人もいるでしょう。一つの慈悲の実践が、人の心を真実に向かわせる手立てになるのです。そうした「慈悲の方便」こそ、釈尊の願いに通じる布教伝道の原点なのかもしれません。コロナ禍のいまは、ことのほかそうした慈悲心が求められているのです。

ただ、そのためには、できるだけ自身が慎ましく生きることが大事だと、先のインド僧はいいます。その意味では、できるだけ少ないもので満足し、何ごとにも感謝するというシンプルな生き方を忘れてはならないと思います。

そのうえで、「願はくはわれ春風に身をなして憂ある人の門をとばばや」(佐木信綱)という歌のように、いまをともに生きるすべての人の苦悩を思い、春風のように軽やかに慈悲の心を届けられる日を待ちたいと思うのです。

(『佼成』2021年月4号)

「アンダースタンド」の大切さ

本部秘書グループ主席
根本昌廣

この体験説法は、2020年12月8日に大聖堂で行なわれた成道会式典で発表されたものです。

私は、昭和30年11月29日、根本家の長男として福島県いわき市に生を受けました。両親、年子の姉、そして、幼い頃は母方の祖母の五人家族でした。立正佼成会には、母の兄の導きで、昭和35年に茨城教会で入会しました。

両親は入会后、熱心な信者となり、母は茨城教会の初代青年女子部長、その後、六十歳で引退するまで支部長、さらに、野崎理事さん(野崎修代・元茨城教会長、元教団理事)のお供のお役も務めました。父も信仰に熱心で、朝晩のご供養では法華三部経誦を欠かさず、仕事をしながら、母が支部長を務める支部の主任、教会教務員、壮年部長を務めました。そんな両親のもとで、私も物心がつく頃から教会の少年部活動に参加していました。

私は元々、エンジニアになることが夢で、大学でも工学を学びました。しかし、学生時代に高校部長のお役を頂いたことがきっかけで、法華経をもっともっと学びたいと思うようになり、野崎理事さんと母の兄の勧めもあり、学林に進むことになりました。

学林の三年時の布教実習で、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ仏教会に六ヶ月滞在しました。その時、英語でとても苦しみ、かえって皆さんに迷惑をかけてしまったという申し訳なさと、無念さがバネになり、卒業後は海外布教を志し、本部の国際部門に配属になりました。

その後、学生時代に教会で出会った家内と結婚。本部から、国際自由宗教連盟(IARF)のフランクフルト

事務局に駐在員として派遣され、昭和59年に開催されたIARF東京大会の準備活動などに二年半従事しました。帰国間際に、当時大干ばつによる飢餓で何百万もの人々が命を落としていたアフリカの数ヵ国に、日本の官民合同支援調査団が派遣されることになりました。私も調査団の一員としてパリで合流し、被害が最も大きかった八ヵ国を三週間かけて回った後、日本に帰国したのです。

この時のアフリカ訪問が、その後の私の人生を180度変えることになりました。全く関心がなかった「第三世



大聖堂で説法する根本主席

界」に目が開かれたのです。二十九歳でした。世界の現実を目の当たりにし、現実を知り続けることの大切さを学んだ三週間でした。それ以降は難民問題にのめりこみ、「アフリカへ毛布をおくる運動」などに取り組んだ後、開祖さまのお慈悲を頂き、ジュネーブの国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) に三年間勤務して難民支援活動に従事し、平成元年末に立正佼成会に復職いたしました。

ジュネーブへの出発にあたって、開祖さまからお言葉を頂きました。「日本を代表して国連に行くのだから、菩薩としての自信を持って、安心してお役に励みなさい。『来臨影向知見照覧』です。一生懸命、陰日なたなく真心を尽くして精進すれば、必ず助け人が現れてくださるのだから、安心して行ってきなさい」と満面の笑みで送り出してくださいました。この時の開祖さまのお言葉は、一生の宝です。

国連では多くのことを学びました。事務所の先輩たちは難民のことを「家族」「友達」と呼び、誰も「難民」と呼びませんでした。ですから、今でも私は「難民」と呼びつけることができず、いつも「難民さん」と呼んでいるのですが、国連での経験を通して、相手を理解するために何が最も重要なのかを徹底的に学んだように思います。「理解する」ということを英語では「UNDERSTAND」といいますが、この語は、「UNDER」と「STAND」という二つの語に分解できます。語源的には次のような意味はないのですが、私にはこの語が「下に立つ」——佼成会では「下がる」と表現されますが——つまり、相手を敬い、そして相手から学ばせて頂くという「謙虚な姿勢」の大切さを教えてくれているように思えてなりません。

それから十三年間、本部でソマリア難民、旧ユーゴスラビア難民、アフガニスタン難民などの支援活動、一食平和基金活動、そして国際宗教協力活動などに携わりました。子どもの時から教会で、また親からも「下がる」ことの大切さを耳にタコができるほど聞いていましたが、実は世界最先端の教えだったのだと、つくづく思い知らされました。大きな気づきとなりました。「人の下に立って人を捧ぐ」——それは人間として大切な、基本的な生き方です。なかなか難しいことですが、今もチャレンジし続けています。

平成9年末、会長先生のお供で、紛争後間もないボスニア・ヘルツェゴビナの宗教指導者のもとを訪問した時のことは一生忘れません。ボスニアの四大宗教の指導者のお一人お一人とお会いしたのですが、彼らはお会いして4、5分もすると、心から安心してつらい思いを目に涙を溜めながら語り始めたのです。会長先生は心の底から、身体全体でお話を聞かれています。ですから皆さんは安心しきって、全てをさらすことができたのだと思います。

翌年、会長先生のご著書『心田を耕す』が出版され、その中に「『聞く』ということのほんとうの意味は自分を無にすること」というお言葉がありました。くあの時、サラエボで私が目にしたのは、そのお姿だった。だから、四人の指導者は心を開いて、先生からの日本への招待をお受けくださったのだと確信しました。身体が震えました。

翌平成10年3月5日の教団創立60周年記念式典には、大聖堂の聖壇に開祖さま、会長先生、光祥さま、そしてボスニアからの四人の宗教指導者を含めた

Spiritual Journey

五十人を超える世界の宗教指導者が一堂に会して、お祝いの式典が挙行されたのです。

私は平成14年から22年まで、土浦教会長と神戸教会長のお役を頂きました。教会長として赴任するにあたり、会長先生から「教会長は信者さんの仏性を拝むためのお役です」と、お言葉を頂戴致しました。土浦教会では教会発足50周年記念式典、神戸教会では60周年記念式典、核兵器廃絶のための署名運動「ARMS DOWN!」など、信者さんと一つになって手どりや導きに取り組んだことが鮮明に思い出されます。先輩の教会長さんからは「布教は行商」「苦は自らの仏性に気づく宝の山」などの言葉を教えて頂き、また信者さん方からも本当にたくさんの学びと気づきを頂きました。本当にありがとうございました。至らぬ点多々あり、信者さん方にはご迷惑もたくさんおかけしたことを心よりおわび申し上げます。

本部に戻りましてから、宗教協力、政治平和活動、一食平和基金などのお役をさせて頂き、現在は秘書とアジア宗教者平和会議(ACRP)事務局のお役をさせて頂いております。特にここ十年近くは、会長先生の対外的なご活動の多くを光祥さまが担われ、精力的に国内外の宗教対話・協力、そして平和活動に取り組んでおられます。

私は留学しているわけでもなく、英語学科卒業でもありません。英語を使って働いた経験は七年近くありますが、それもドイツと国連という、さまざまな国籍の人が話す英語環境だったため、“純正英語”にはあまり触れていません。その上、尻上がりのいわき弁は今も直りません。故郷の言葉に誇りを持っているので、直そうともして

いません。これは痩せ我慢でもあります。ですから、英語も完全に福島英語です。

しかし、昔、開祖さまの通訳をされていた上司の根津益朗秘書室長さんから、「根本さん、私たちはネイティブじゃないのだから、無理にきれいな英語を話そうとしなくても、コミュニケーション、つまり、通じればよいのです。通じることが大事なのです」と教えて頂き、今でもその言葉に救われながら、お役をさせて頂いています。その分、会長先生と光祥さまにはご迷惑をおかけしており、大変申し訳ございません。若い人たちから時々発音を教えてもらいながら、いましばらく頑張ろうと思います。

この十年近く、光祥さまのお供修行をさせて頂く中で、私にとってとても貴重な宝の言葉を頂いております。それを最後にお分けしたいと思います。

一、当たり前のごことに感謝

一、最も弱き人々、声なき人々と共に生きる

一、安住の地に身を置かずに、問題のある所に出かけていく

一、私たちの使命と私の使命の両方を大切に生きる

一、リスク(危険)の伴わない菩薩行は存在しない

一、大変な時には、もう一つ大変なことを増やす

「成道会」という、お釈迦さまの悟りが過去と現在と未来の人々に、そして世の中に救いをもたらして下さることをお祝いするこの善き日を、心からお祝い申し上げます。私をここまでお導きくださった仏さま、そして開祖さま、会長先生、光祥さま、両親、家族、親戚、友人、

Spiritual Journey

同僚、さらに信者さんお一人お一人に心から感謝し、報恩感謝の決意をもって、これからも菩薩行に挺身してまいります。

長男で一人息子である私が本部勤めのため、実家の近くに住む姉夫婦とその家族の皆さんが、これまで今年九十二歳と九十三歳になる両親の面倒を見てきてくれました。母は認知症を発症し、今年、老人介護施設に入所しました。父は一週間に何度かショートステイで

同じ施設に泊まりに行きますが、それ以外は姉夫婦が実家に泊まり、父の面倒を見てくれています。私は先月末に定年となり、福島で両親の介護をする予定でしたが、姉夫婦たちが「福島のこと是一切心配しなくていいから、本部でのお役に精進してほしい」と言ってくれていますので、その分、尚一層、本部でのお役に精進させていただきます。

皆さま、ありがとうございました。



現地の人に毛布を届ける根本主席
第1回アフリカへ毛布をおくる運動
1984年12月 エチオピアのティグレ州メックエルにて

法華三部經

各品のあらましと要点

庭野 日敬

妙法蓮華經

觀世音菩薩普門品第二十五

この品は、無^む尽^{じん}意^い菩薩^{ぼさつ}が^お釈^{しゃ}迦^かさまに、^{かん}ぜ^{おん}ぼ^{さつ}「觀世音菩薩はなぜ觀世音という名をもたれるのですか」とお尋ねしたのに対して、そのわけを詳しくお説きになる章です。

みようほう じひ 妙法に救われ慈悲で救う

この品で大切なことは、ともすれば觀世音菩薩は〈他力の救い〉を頼む対象のように考えられてきましたが、そうではなく、実は〈真実の智慧〉の象徴であるということです。真実の智慧といっても、厳密にいえば〈すべての現象を、空にもとらわれず、仮にもとらわれず、双方の融合相即したものととしてとらえる智慧〉すなわち〈中諦の真智〉です。これを人間に即していえば、人間の平等相をも生かし、差別相をも生かし、どんな人の、どんな場合にもぴたりと当てはまる、〈自由自在の智慧〉です。諸法実相を説く法華經(妙法)そのものです。

觀世音菩薩は、そのような真実の智慧の持ち主であるとともに、〈大悲代受苦(多くの人に代わってその苦しみを受けてあげようという大慈悲心)〉の持ち主でもあるのです。

われわれがほんとうに救われるには、妙法を知り、妙法を思い、妙法に従って行動するよりほかはありません。また、われわれがほんとうに他を救うには、慈悲心に基づく自己犠牲的な行動によって、その人を妙法の道へ導くよりほかに方法はないのです。この品に、觀世音菩薩を念ずることによって七難から逃れることが詳しく説かれています。それらはすべて、このことを教えられているのです。

そうはいつでも、昔の人はそんな抽象的なことをぴたっと確実につかまえることができませんでしたので、觀世音菩薩というすぐれた洞察力(世間の音を觀る=世のすべての動きを知り、すべての人の欲するところを見通す)をもち、三十三身というさまざまな姿となって至る所にあらわれ、大慈悲心をもってあらゆる苦し

みを救ってくださる、美しいやさしいお方を設定して、そのお方に心を通わせれば、心が妙法に感応して救われる……と説かれたわけです。

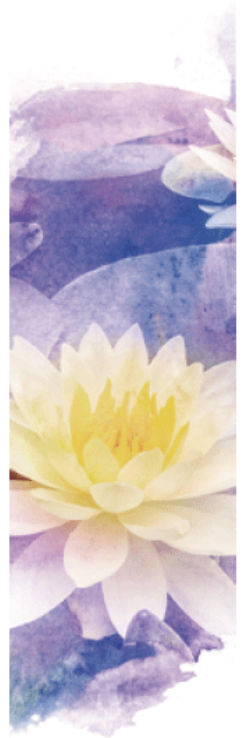
観世音菩薩になりたい

ですから、現代のわれわれは、観世音菩薩というすばらしい大人格を心に思い浮かべ、「あのようにになりたい」というあこがれと願いをもたねばならないのです。そのあこがれが強烈であれば、どんな苦しみがやってきても必ずそれを乗り越えることができます。またそういう願いをもっていれば、人の苦しみを見れば、救いの手を差し伸べずにはいられなくなります。

ふもんじげん 普門示現

この〈観世音菩薩になりたい〉という願いこそが、〈普門示現〉ということの神髄にほかなりません。

〈普門示現〉の〈普〉とは、広く普く、どこにもかしこにも、という意味です。〈門〉というのはもちろん出入り口のことですが、それから転じて〈家〉という意味に用いられます。また、〈部門〉などというように、物事を分類するときの一つの区分けにも用いられます。ですから、〈普門〉というのは、〈普くすべての家に〉という意味もあるし、また〈人生問題のあらゆる部門に〉という意味もあるわけです。ひっくるめていえば、〈この世の至る所に、ありとあらゆる問題と、あらゆる場面に、自由自在に〉ということになります。



つまり〈普門示現〉とは、観世音菩薩がこの世の至る所に、あらゆる問題と、あらゆる場面にそれぞれふさわしい姿をとって自在にあらわれ、人びとを救い導いてくださるということを意味しているわけです。

このような観世音菩薩になりたいと願うことは、家庭において、社会において、国家において、さらに広くは世界においてそれぞれ置かれた立ち場にふさわしく、人びとの苦しみ・悩みに応じた具体的な救いの手を差し伸べていこうと願うことです。そういう行動こそが、観世音菩薩の〈大悲代受苦〉の大慈悲心そのものであるからです。

こうした〈代受苦〉の行動を、どのような立ち場においてでも、どのようなささいなことでもいいから、一人でも多くの人実践に移したならば、家庭・社会はもちろんのこと、世界の平和も決して夢ではなくなるのです。そういうことから、この〈普門示現〉ということがこの品の最大の要点になるわけであります。

とく 徳も力も妙法とその実践から生ずる

さてこの品でもう一つ見逃してならないことは、観世音菩薩の広大な徳と力に感激した無尽意菩薩が、自分の首飾りを捧げたところ、観世音菩薩は、すぐさま半分を釈迦牟尼世尊に、半分を多宝仏塔に捧げたということです。それは、観世音菩薩の偉大な徳と力も、つまりは理としての妙法(多宝仏塔)と、それを説き実践されたお釈迦さまのおかげであるということです。これを見ても、ただ「観世音菩薩を拜めば救われる」などと考えるのが大きなまちがいであることは、明白なのであります。



妙法蓮華経 陀羅尼品第二十六

この品は、法華経のこれまでの説法に感激した人びとが、「必ずこの教えを守護いたします」と、強い決意で誓言し、その守護のための神呪を説いた章で、全章が梵語そのままの陀羅尼（総持真言＝あらゆる悪をとどめ、あらゆる善を勧め、力をもつ秘密の言葉）に満ちています。

その陀羅尼は、ほとんど神々の名（もしくはその異称）の列挙であり、その神々への呼びかけであるといえますから、つまりは〈神々への感応を求める〉ということになりましょう。

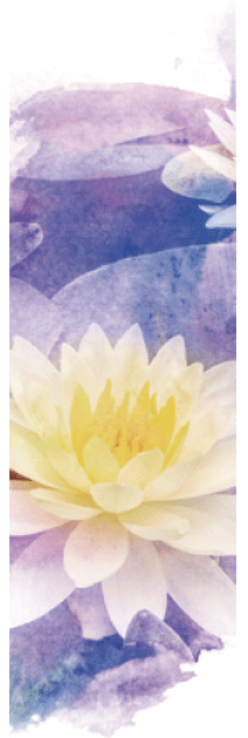
ごしゅふほん 五種不翻

この品には、梵語そのままの言葉がいくつも出てきます。なぜ中国語に翻訳しなかったかという点、鳩摩羅什をはじめ仏教経典を中国語に翻訳した人たちは、どうしても翻訳しないほうがよいと判断したものは、原語の音に似た漢字を当ててすませ、意図的に原語のまま残しておいたのです。それを〈五種不翻〉といいます。

- 一、インド固有の動植物や、伝説上のものの名。
 - 二、一つの語に多くのことが含まれているので、一語に翻訳すると原意が十分に尽くされないもの。
 - 三、神秘的なこと。いわゆる秘密の語で、これを翻訳すれば、その奥深い神秘的な意味が減殺されてしまうもの。
 - 四、昔からの習慣に従って、原語のままにしておいたもの。
 - 五、翻訳すれば、真の意味を失ってしまうもの。
- 以上の五種類の場合があります。

（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』

佼成出版社、2016年〔初版 1991年〕、P.208-215）



Director's Column

コロナ禍なれども春遠からじ

国際伝道部長

赤川 恵一

お釈迦さまのお誕生月に、会長先生は「誕生偈」を解きほぐし、私たちに与えられた命が如何に尊く、その尊い命を如何に生きることが仏道を歩むことなのかを分かり易くお説きくださいました。

「仏教の核心」を自覚しながら、釈尊伝来の「救い・救われ」の道を生きることができたら、仏教徒としてこれほどうれしいことはありません。「仏の教えを暮らしに生かす日々の精進」が、即ち「私たちが仏であることの証」などとは、私の考え及ばなかったことです。

「善いことを、心を込めて繰り返す」「精進、精進、また精進。楽しくなるまで精進。自分が変わるまで精進。生まれ変わったらまた精進」とは、在家に生きる私たちにに向けて説かれた教訓です。勿論、この場合の精進は「菩薩行」を指すものですが、自分に向けたものであっても人さまに向けたものであっても「自利利他」の慈悲の方便を実践していくことに他ありません。

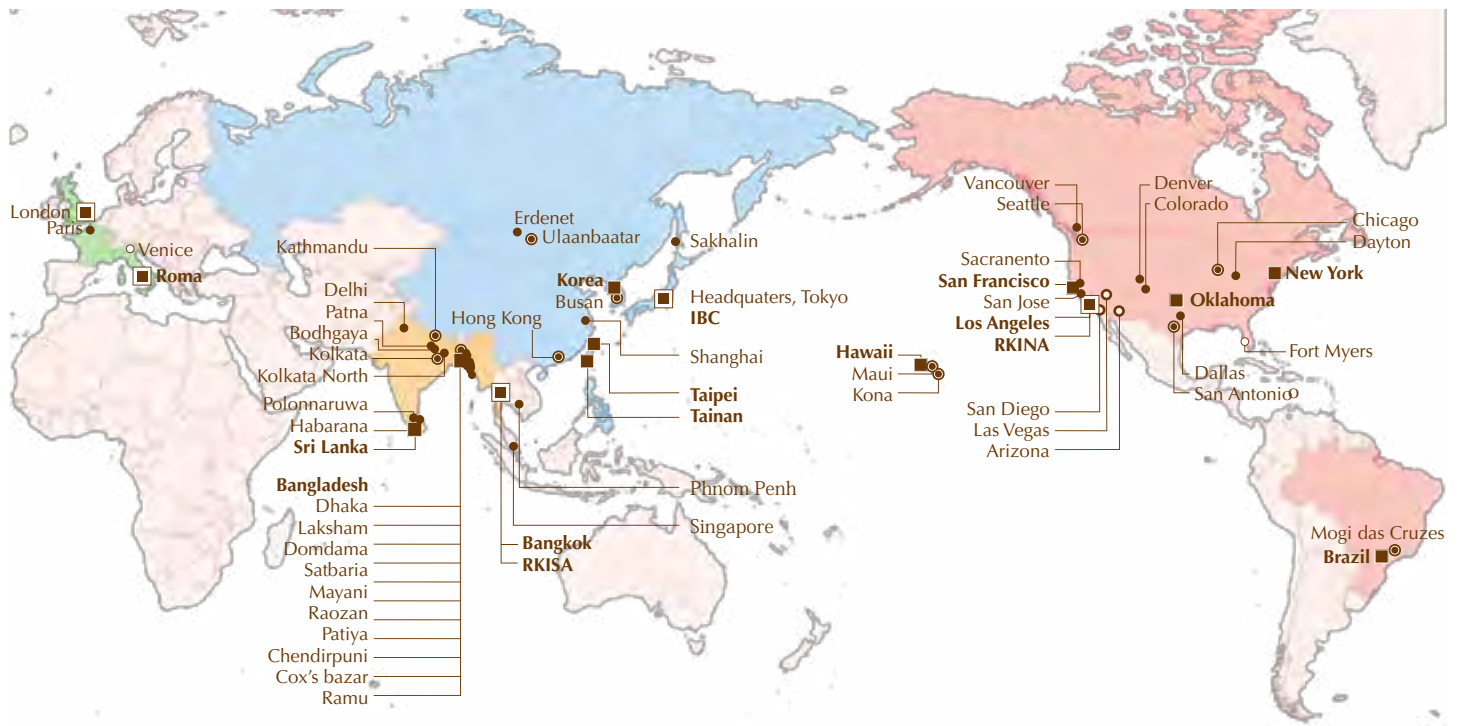
コロナ禍を厳冬の寒風に見立てれば、それもやがては穏やかな癒しの春風になり、世界中の人々に安心と感謝の心を沸き立たせてくれる日も遠からぬものと信じています。合掌



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
 Email: sangha@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1809 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
 POBox 33636, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
 Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
 POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
 TEL: 1-650-359-6951 Email: info@rksf.org

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
 TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
 TEL: 1-773-842-5654
 Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
 POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
 Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
 TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-269-4567
 Email: dharmasa@rksabuddhistcenter.org
 URL: <http://rksabuddhistcenter.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
 (Mail) POBox 692148, San Antonio, TX 78249, USA
 TEL: 1-210-558-4430 FAX: 1-210-696-7745
 Email: dharmasanantonio@gmail.com
 URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
 TEL: 1-253-945-0024 Email: rkseattlewashington@gmail.com
 URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
 Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Please contact Rissho Kosei-kai of Kolkata

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Please contact Rissho Kosei Dhamma Foundation

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL: 880-2-41360470

Rissho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanail, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Please contact Rissho Kosei-kai Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya**Rissho Kosei-kai Ramu****Rissho Kosei-kai Aburkhiln****Buddiyskiy khram "Lotos"**

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai**Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar**

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Please contact Rissho Kosei-kai di Rome

Rissho Kosei-kai of Paris**Rissho Kosei-kai of Venezia****Rissho Kosei-kai of the UK**

29 Ashbourne Road, London W5 3ED, UK
TEL: 44-20-8933-3247 Email: info@rkuk.org URL: <https://www.rkuk.org>
Facebook: <https://www.facebook.com/rkuk.official>
Twitter: https://twitter.com/rkuk_official
Instagram: https://www.instagram.com/rkuk_official

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>